

3ヶ月留学実施における教育的意義について

黒崎 真由美^a

^a 湘北短期大学総合ビジネス学科

【抄録】

1980年代以降の急激な円高傾向を受け、我が国の海外渡航者数は急激な伸びを示した。海外が単なる憧れだった時代から、誰もが身近に感じることのできる時代へと移行した。学生の留学という視点でも、フルブライト奨学生⁽¹⁾に代表される、米国の有名大学への奨学金取得による留学から、能力の向上や生活体験、資格の取得を目的とした留学に多くの一般学生が参加できるようになった。また、インターネット等の情報技術の飛躍的な発達により、世界中の出来事を瞬時に知ることができる高度情報化時代に突入している。溢れる情報をどのように加工し、自分のものとして定着することができるかということが大きな課題となっている。

本稿では、このような世界情勢のなか、短期大学生の海外での「生活体験」ともいうべき、カナダやオーストラリアにおける通常の授業の枠組みを超えた3ヶ月留学の学修が、英語能力や、帰国後の学生生活、その後の進路や考え方にどのような影響を与えたのかということについて考察するものである。

【キーワード】

国際理解教育 3ヶ月留学 異文化理解 英語能力

はじめに

文部科学省による「日本人の海外留学者数」の調査によると、2008年度統計では、海外の大学等に留学した日本人は各国・地域で66,833人となっており、対前年比約11%の減少となっている。急激な上昇カーブを示した1992年(39,258人)から2004年(82,945人)をみると約20%の減少となっている。

このことが、技術革新や若年層の資質の変化と

どのような相関関係があるのかについて、ここで論ずることはしないが、一向に回復の兆しを示さない経済状況、就職活動の早期化、我国の外国語教育、技術革新等が何らかの影響を与えていることが考えられる。特に、インターネットの飛躍的な発達は、時としてゲーム世代といわれる若者の「思想のバーチャル(仮想)化」を進め、実体験と仮想体験の交錯が起こっているのではないかと推察される。

現代社会においては、世界中のさまざまな事象を日本に居ながらにして容易に見聞きできるようになった。また、テレビジョンテクノロジーの発達は、素晴らしい景観を素晴らしい映像で見せて

<連絡先>

黒崎 真由美 mayumi@shohoku.ac.jp

くれるが、実際にその土地に立って体感するほどの迫力を感じとることができるであろうか。

「ほんものの素晴らしさ」を体験することは、人のその後の生活に大きな影響を及ぼすことがある。異文化の現地体験教育ともいべき本学の留学クラスについて、過去に実施した17年間を振り返り、参加した172名の英語力を含む変化について考察してみたい。

1. 3ヶ月留学の経緯

1991年に設置基準の大綱化⁽²⁾が行われ、海外の教育施設での学修を単位として認定できるようになったという状況を踏まえ、本学では3ヶ月間の単位認定海外語学研修プログラムを1994年より開始した。研修先は研修内容および治安等を考慮した上で、北アメリカにおいて英語研修プログラムで高い評価を得ているカナダのビクトリア州立大学 (University of Victoria 以下UVIC) のランゲージセンターとした。(1994年から1999年まで実施)

初年度は、外国語教育や国際交流活動を所管する国際交流センターのみならず、全学的なプロジェクトチームを作り、その準備(留学事前学習、留学準備合宿、保護者会等の実施)にあたった。学習の内容は、英語力強化を始めとしてカルチャーショック、ホームステイ、そして日本(文化)研究を網羅した。

UVICにおける語学研修は、本学学生27名のための特別クラスを能力別で2クラス編成してもらった。滞在方法については、3ヶ月間のホームステイに関しては憂慮があり、週末のホームヴィジット・ホームステイそれぞれ1回ずつを含む全期間寮滞在とした。結果は、UVICからは英語力向上の度合いがホームステイをしている学生よりも遅い。また参加学生からは長期のホームステイ

をさせてほしかったとの意見が出た。ホームステイは24時間の英語学習を意味することから、当然の結果といえる。交流という観点でも、24時間の国際交流、200人の世界各国からの留学生との交流のチャンスを無にしていたという反省が残った。次年度から語学研修は湘北クラスを廃止し、本学学生は200人の中の1人となった。ホームステイは期間を1ヶ月に延ばし、その翌年は2ヶ月、6年目の1999年から3ヶ月の全期間とした。ホームステイは留学のハイライトであり、且つ最も厄介な問題ともなりえるが、外国の人との「生活」を通しての交流は、学生に最も貴重な体験として残った。開始2年目からは、大学入学前の英語の事前指導を自宅へ送付し、学習するように指導を行った。

2000年からは、研修先をオーストラリアの国立ニューカッスル大学 (The University of Newcastle 以下UN) のランゲージセンターに変更した。主な理由は、定評のある語学研修プログラムと治安の良さを前提に、コストが低く、また本学の要望によるオーダーメイドで研修内容を組んでくれることにあった。留学先の変更を機に、後期に出発するこの学生たちの事前学習の一環として前期の間NUより英語教員を招聘することにした。1996年にもビクトリア大学の英語教員を1ヶ月間招聘したことがあり、すでにその有効性は実証済みであった。このプログラムのさらなる活性化を期して、2002年から留学先の研修費用を本学が負担するスカラシップ制度を導入した。このクラスにSELIC (Shohoku English Language Intensive Class) という名称をつけたのもこの年からである。

3ヶ月留学実施における教育的意義について

以下〈表1〉は留学クラスの実施状況である。

	年度	派遣大学	派遣国	参加人数	備考
1	1994	University of Victoria	加 国	27	商経学科、生活科学科
2	1995	University of Victoria	加 国	11	
3	1996	University of Victoria	加 国	19	以降は、商経学科単独催行
4	1997	University of Victoria	加 国	8	
5	1998	University of Victoria	加 国	12	
6	1999	University of Victoria	加 国	9	
7	2000	The University of Newcastle	豪 州	7	豪州に変更
8	2001	The University of Newcastle	豪 州	10	
9	2002	The University of Newcastle	豪 州	8	特別奨学生制度(以降継続)
10	2003	The University of Newcastle	豪 州	12	
11	2004	The University of Newcastle	豪 州	5	
12	2005	The University of Newcastle	豪 州	11	
13	2006	The University of Newcastle	豪 州	9	
14	2007	The University of Newcastle	豪 州	14	
15	2008	The University of Newcastle	豪 州	8	
16	2009	The University of Newcastle	豪 州	2	
17	2010	The University of Newcastle	豪 州	6	
合計				172	

2. カナダ3ヶ月留学の実施

UVICには、6年間に互り、合計86名の学生を派遣した。学生の募集は、大学案内と別冊のリーフレットを作成し、オープンキャンパスや高校教員に対する説明会の機会に、特色のある留学プログラムとして紹介を行った。当時は、短大が行う留学制度としては長め(3ヶ月)の設定をしたことや留学先で取得した単位が所定の基準に基づいて、本学の単位として認定されるというメリットから、多くの志願者を集めた。受け入れ学科は、商経学科(現総合ビジネス学科)国際ビジネスコース留学クラス、生活科学科(現生活プロデュース学科)国際教養コース留学クラス。初年度の入学者は、商経学科国際ビジネスコース(留学クラス)14名、生活科学科国際教養コース(留学クラス)

13名、合計27名。生活科学科の1名、商経学科の1名の英語教員が実施担当責任者となった。

留学クラスの学生に対する指導は、全学的なプロジェクトとして運営され、内容の検討が行われた。留学事前学習の内容は、実践的な英会話力向上を基本として、日本語と英語による、カナダ・日本の文化、地理、歴史、政治、社会情勢等の学習、カルチャーショックについて、留学直前の集中授業合宿、旅行会社による説明会、保護者説明会等、正課の学習のみならず、課外での特別指導を行った。

後期の大部分をカナダで学習するため、教育課程の変更を行い、2年間での卒業を可能にした。単位認定は、〈表2〉の科目15単位。UVICから送付された成績をもとに本学で単位認定を行った。

〈表2〉 留学クラス開講科目

〈科目〉	〈単位〉
英語Ⅱ (作文)	2単位
時事英語 (生活科学科では日常英語)	2単位
英会話Ⅱ	2単位
英会話Ⅲ	2単位
外国事情Ⅱ	2単位
比較文化	2単位
英文タイプ	2単位
体育実技	1単位

授業スケジュールは、基本的に午前中と午後それぞれ2時間ずつの英語研修が主体である。その教授方法は、当時北アメリカで広く採用されていたCommunicative Approachで、語学のスキルを総合的に習得させるものであった。従来の日本の英語教育のように、スキルごとに科目を分けて行

う方法とは大きく異なっていた。新しい教授方法に学生たちは興味を覚えたが、初年度本学学生は湘北クラスとして編成され、他の学生と交流する機会があまり与えられなかった。ただし、UVICの正規学生がボランティアで個々の学生の会話パートナーとなってくれ、この交流を楽しんだ学生は多い。英語研修に加え、体育、コンピュータ操作の授業が本学の学生対象に開講された。

土曜日は、アクティビティとして、ブッチャート・ガーデンズの見学、アップアイランドツアー、ネイチャーハイク、ターキートロット、戦没者慰霊祭への参加、博物館の見学、感謝祭の参加、アフタヌーンティーの体験等、ビクトリアならではの体験ができるように配慮されていた。これらは比較文化の授業として、レポートを提出することにより単位認定が行われた。

〈表3〉 当時の1週間のスケジュール表

	MON	TUE	WED	THU	FRI	SAT	SUN
08:30						Cultural Activities	Free
10:30	ELPI*	ELPI	ELPI	ELPI	ELPI		
10:30							
12:30	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch	Lunch		
12:30							
14:30	ELPI	ELPI	ELPI	ELPI	ELPI		
15:00							
15:30		Fitness		Fitness			
16:00	WP**		WP		Fitness		
17:00							
18:00	Dinner	Dinner	Dinner	Dinner	Dinner		
19:00							

* ELPI Intensive English Language Program

** WP Word Processor

3. オーストラリア3ヶ月留学の実施

2000年度からは、姉妹校であるオーストラリアのニューカッスル大学へ留学先を変更した。同大学へは以前から短期海外研修先として学生を派遣していた。エクステンジプログラム⁽³⁾として、UNの学生の受け入れも行っており、相互の交流を深化させることが可能なこと。日本人学生が比較的少なく、異文化を感じるための環境が整っていること。また、本学のオーダーメイドの研修内容を組んでくれる、自然溢れる広大なキャンパスで、UN学生や世界各地から英語を学びに来ている留学生との交流が可能なこと。TAFE⁽⁴⁾の協力を得たホスピタリティー産業でのインターンシップを行うことができること。そして最大のメリットは、滞在全期間に互る良質のホームステイが可能ながあげられる。

方面をオーストラリアに変更したことを機に、留学事前学習の一環として特色あるプログラムを作成した。すなわち、ランゲージセンターの教員を前期の期間招聘し、オーラルを中心とする英語集中授業、オーストラリア研究に関する授業を担当してもらったことである。学生が渡豪した際には、この教員がアドバイザーとなり、学生のケアを行う。このシステムは、留学する学生の留学先での精神的な負担を軽減することに大きな役割を果たしている。さらに、招聘教員は、本学に滞在中に通常の授業のみならず、国際交流委員会の学生や地域市民、高校生との交流等、様々な場面で活躍する。

〈表4〉1年次のスケジュール

入学前	プレアドミッション・プログラム (入学前学習)
4月	入学式 招聘教員来日 留学前特別授業開始(～9月まで) 英語、オーストラリアの政治・経済・文化、日本文化等
6月	保護者会
8月	夏季休暇
9月	出発前特別授業、結団式
10月上旬	ニューカッスルへ出発
12月末	帰国
1月	フォローアッププログラム 帰国後特別授業 (集中ゼミナール、就職ガイダンス)
4月	2年次は通常授業

ア. 留学クラス学生の選抜

総合ビジネス学科に設置した留学クラス独自のリーフレットを作成。大学案内等とともに高等学校へ送付している。選抜方法は、推薦入試における指定校制と公募制、AO型、そして一般入試制度による。一般入試においては、留学を目指す生徒への試験科目を英語指定とし、面接においては海外で生活体験をしたいという熱意があるかどうかをポイントに評価を行っている。

イ. 招聘教員と事前学習

オーストラリア3ヶ月留学実施に際しては、UNで教鞭をとるTESOL⁽⁵⁾の有資格教員を前期に招聘し学生の指導にあたってもらう。招聘教員は留学クラスの学生を中心に、正規授業、特別授業、イングリッシュラウンジ⁽⁶⁾や高等学校への出張授業などを行う。8月に帰国した教員は、10月に渡豪する留学クラスの学生のケアを行う。前期滞在中に学生の英語能力や性質を把握しており、的確な指導を行うことが可能となる。学生は現地

に適応するまでに、既知の英語教員がいるという安心感のもと学習を継続することが可能となる。特に3ヶ月間という長い期間海外で暮らすことが初めての経験となる学生に対しホームステイ先でのトラブルを最小限に抑えるために、学生の性格を熟知した本学招聘教員が現地ホームステイコーディネーターと綿密な連絡を取りながら円滑な運営を心がけている。招聘教員には週に1回本学に対して、学生の状況をレポートすることを要請している。

留学クラス学生のための事前学習は、入学直後のガイダンス、保護者説明会に始まり、出発までに本学教員による課外授業を12コマ程度、オーストラリア教員によるものを14コマ程度実施する。特に、滞在のハイライトとなるホームステイについては、留学の満足度を左右する重要なものと位置づけ、詳細に互る指導を行う。核家族化が進行し、ホームステイ文化が醸成されていない状況下で育った日本の学生にとっては、非常に新鮮な内容となる。

時間をかけた事前指導により、UNのホームステイコーディネーターからは、本学の学生を毎年受け入れたいという家族からのオファーがあるという、嬉しい知らせが届いている。以下は、平成22年度に実施した内容である。

○ 本学教員によるもの(日本語、英語)

- ・ 海外で学ぶことの意義について
- ・ 留学先であるオーストラリア、ニューカッスルについて①②③
- ・ アプリケーションフォームの記入について
- ・ カルチャーショックについて①②
- ・ ホームステイについて①②③
- ・ 日本文化学習①(英語によるもの)②(日本語によるもの)
- ・ SELIC 2年生の体験談を聞く
- ・ 発音①②
- ・ パスポート取得、外貨等

- ・ ニューカッスル大学 ランゲージセンター長との面談(来日時)

○ ニューカッスル大学教員によるもの(抜粋)
(すべて英語)

- ・ Getting to know you – questionnaire
- ・ Program for Shohoku College at the Language Centre
- ・ Language Centre daily time table and class levels
- ・ Running reading – based on Language Centre brochure
- ・ Grammar
- ・ Writing
- ・ Listening
- ・ Dictation
- ・ Public Transport
- ・ Living with a host family
- ・ Cultural Differences
- ・ Explain Australian Quarantine Laws
- ・ Role play problems which may arise

ウ. 保護者説明会

毎年、6月上旬に学長・学科長・招聘教員等が出席し、日程、授業内容、留学先であるニューカッスル市や大学の情報提供、ホームステイに関すること、出発までのスケジュール等について説明会を開催している。保護者に対しても出発する10月までの自宅における指導等について詳細な説明を行い、理解を求めている。

エ. 引率

引率については、出発時、帰国時に本学の教員が行っている。特に重要なのは出発時の引率であり、学生の現地への適応を図り、関係者への協力要請を行う。出発の時期は、現地での適応時間を考慮し、授業が開始される概ね1週間程度前に設定している。到着直後には、初めて訪れた地に対する高揚感や、ホームシック等で、様々なアクティビティに躊躇する学生も出るが、ホームステイ先から登校する1週間後には、元気な表情を見せている。

オ. プログラム

授業は、UNのキャンパスにあるランゲージセンターで行われる。レベル別に分かれた少人数授業を実践しており、現在は世界各国から480名の留学生が学んでいる。サウジアラビア、ブルガリア、中国、韓国、台湾、タイ、南アメリカ諸国等からの留学生との交流が可能で、オーストラリアで異文化と触れ合うことのできる機会にもなっている。3ヶ月留学の本学の単位認定は、〈表5〉のように行われる。

〈表5〉 留学クラス開講科目

〈科目〉	〈単位〉
実用英作文	2単位
実用英会話Ⅰ	2単位
実用英会話Ⅱ	2単位
比較文化	2単位
オーストラリア研究	2単位
時事英語	2単位
ボランティア演習	2単位
体育実技	1単位

クラスレベルは2011年現在5段階。入学前のプレシメントテストで、クラス分けが行われる。1クラスの人数は最大18名。本学のSELICの学生のプログラムは、12週間で構成されている。基本的には、ランゲージセンターで組まれるプログラムに沿って授業が進められているが、日本の就職情勢を鑑み、本学学生のためのTOEIC講座を特別授業として開講している。また、日本の他大学に先んじて、インターンシッププログラムを取り入れた。しかしながら、このプログラムはオーストラリア国内での諸事情により、2009年度以降その実施を見合わせる事となった。

また、3カ月間の留学の記録として英文で書くポートフォリオの作成が学生に課されている。5

編のオーストラリア体験レポートを中心に、学生たちは思い思いに日々の出来事、授業の記録、オーストラリアの風景・家族・友人の写真等を記録として綴っている。このポートフォリオが比較文化の単位として評価・認定される。

カ. 英語力の向上

個人差はあるものの、帰国後の英語能力試験等の結果を見ると、留学をしていない本学の他の学生と比較し、リスニング力において大きな優位性が認められる。帰国直後のTOEIC試験においては、毎年留学クラスの学生が得点の上位を占めている。特にリスニング能力の結果は、他の学生と比較すると著しい成果を収めている。留学前と留学直後のスコアを比較すると、最大200点、平均でも120点以上の向上が見られた。

国際感覚という点では、異文化を直接肌で感じること、人種の問題、家族のあり方、障害を持つ人との共存について等、ホームステイをすることによって多くの体験をし、成長を見せている。

現地の滞在を全てホームステイにすることによって、「話す力」と「聞く力」の伸びが目覚ましい。学生は、自分の思いを伝えたいという一心で学習に励む。クラスは世界中から集まる学生との混合クラスなので、日常的にも日本語を話す機会が極力少なくなるように、配慮されている。UNのランゲージセンターにおいても教授法に関してはCommunicative Approachが採用されている。学生たちは楽しみながらいつの間にか英語を習得していく。授業スケジュールは原則的には午前中3時間、午後2時間の計5時間で、週1回午後にはレクチャーの聴講が組まれている。またどのレベルにあってもプレゼンテーションは必須であり、学生たちの発信能力は必然的に向上するようになっている。アクティビティとして、オーストラリアならではのものがクラス毎に用意されている。

以下は、2010年度の12週間のプログラム内容である。

The University of Newcastle Language Centre
12-Week Program for SHOHOKU COLLEGE
(4/10/2010 - 26/12/2010)

SATURDAY	SUNDAY	MONDAY	TUESDAY	WEDNESDAY	THURSDAY	FRIDAY
		4/10 Arrive in Sydney; Transferred to Newcastle and taken directly to host family. PUBLIC HOLIDAY	5/10 9-10am Welcome by staff at the Language Centre. 10-12am Tour of the Language Centre and campus; student card. 12-1pm Lunch 1-3.00pm Tour of Newcastle "Pat a Koala at Blackbutt Nature Reserves; visit lookouts, beaches, etc.	6/10 9am-3pm English with Jacky Worsdell BBQ with Teacher Jacky Worsdell	7/10 9am-3pm Computer session Visit to a nursing home	8/10 Free with host family
9/10 Free with host family	10/10 Free with host family	11/10 ELICOS* Orientation 9-12am English 12-1 Lunch 1-3pm English	12/10 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English	13/10 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English 3.30-4.30pm On campus sport	14/10 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English	15/10 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English
16/10 Free with host family	17/10 Free with host family	18/10 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English	19/10 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English 3.30-4.30pm On campus sport	20/10 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English	21/10 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English	22/10 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English
23/10 Free with host family	24/10 Free with host family	25/10 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English	26/10 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English 3.30-4.30pm On campus sport	27/10 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English	28/10 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English	29/10 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English
30/10 Free with host family	31/10 Free with host family	1/11 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English	2/11 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English 3.30-4.30pm On campus sport	3/11 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English	4/11 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English	5/11 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English
6/11 Free with host family	7/11 Free with host family	8/11 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English	9/11 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English 3.30-4.30pm On campus sport	10/11 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English	11/11 ELICOS 9-11am English 11-12am TOEIC 12-1pm Lunch 1-3pm English	12/11 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English
11/12 Free with host family	12/12 Free with host family	13/12 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English	14/12 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English	15/12 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm English	16/12 ELICOS 9-11am English 11-12am TOEIC 12-1pm Lunch 1-3pm English 3.30-4.30pm Certificate Presentation & Farewell Afternoon Tea	17/12 ELICOS 9-12am English 12-1pm Lunch 1-3pm ELICOS Students "End of Year" Party
18/12 Free with host family	19/12 Free with host family	20/12 Free with host family	21/12 Free with host family	22/12 Free with host family	23/12 Free with host family	24/12 Free with host family
25/12 CHRISTMAS DAY Free with host family	26/12 BOXING DAY Depart for Japan Pick-up by private bus from the University to Sydney Int'l Airport					

* ELICOS English Language Intensive Courses for Overseas Students

キ. 留学クラスの位置づけと教育的効果

一連の本学の国際理解教育の中核プログラムである。

単なる観光旅行や短期研修では味わうことのできない、海外の家庭で「暮らし」、現地の人々との「コミュニケーションを通じた実体験による学び」を目的とした留学と位置づけている。

「生活する」ことによって、多様な人と出会い、そこに生きる人のエネルギーや考え方を目の当たりにしながら、オーストラリアや日本、家族、社会等を考える学びの効果は大きい。同時にそれは、自分自身を見つめなおす大きなきっかけにもなっている。

実体験によって得た心の動きは、大きなモチベーションとなり、英語の学習のみならず、卒業後社会に出た後も、留学したことを一生の財産として、彼らの心に残っている。言語や文化の違いを越えた出会いと、そこで「自分で考えた経験が」もっとも大きな教育的な意義を持っていると言える。

4. 留学クラスと時代背景

カナダにおける3ヶ月留学を開始した1994年の短期大学への進学率は、13.2%であり（四年制大学 30.1%）⁽⁷⁾ 短期大学の進学率が最も高い年であった。本学への志願倍率も非常に高く、明確な目的意識を持って入学してくる学生が多かった。多くの大学で、「国際」という名称を大学名や学科名に付することなどが盛んに行われ、「国際化」が一種のブームとなっていた。21世紀は急速にグローバル化が進むといわれ、政治や経済そして環境問題等が地球規模での標準化が進む所謂「ボーダーレスな時代」へと突入すると予測されていた。それに伴い、企業が生産の場を廉価な人件費を求めて海外に生産の拠点を移すというようなことが

盛んにおこなわれていた。

大学においても、社会の急速な国際化の動きに対応する人材の育成が急務であるとされていた。しかし、国際化あるいは国際人という名称が一人歩きをし、国際という概念の形成が遅々としていた。

その後の状況は、大学教育のユニバーサル化とあいまった大学生数の増加、円高傾向に後押しされるように、卒業資格を得るための留学から、資格を取得することやワーキング・ホリデー⁽⁸⁾ビザを取得して留学を果たすことなども一般的になっており、留学することが特別なものではなくなっていた。就職状況についても、バブル経済崩壊後ではあったが、雇用状況はまだ好調であり、在学中は学内外の活動に没頭できるという環境があった。留学クラスに在籍した学生は英語が好きで、できれば卒業後は英語を活かした就職をしたいと考えている者が多かった。実際に3ヶ月留学をした経験を基に、素晴らしいモチベーションを構築し、商社等に就職した者もいた。短期大学という就学期間が短い教育機関において、3ヶ月留学の意義を英語能力の面から論ずるのは容易ではないが、各々が何らかの関わりを維持しながら今を生活している。

留学に要する費用については、航空運賃、傷害保険、授業料、寮費（ホームステイ費用）などを含めると、授業料とは別に多額の費用が発生する。本学では、海外で学ぶということの重要性を認識し、ランゲージセンターにおける授業料の負担を始めとして様々なメリットをつくり、参加しやすい環境を構築した。入学の時点で、単に海外に憧れをもっているに過ぎない学生の指導に関しては、招聘教員も含めて、今までのノウハウが蓄積されている。

年度によっては、留学クラスへの参加人数が少なく、実施の有無に関する議論を行ったことも

あったが、留学クラスの実行は単にクラスの存続にとどまらず、本学の国際理解教育の推進に関わる重要事項であると位置づけ、継続してきた。

まとめ

21世紀になってから、グローバリゼーション(Globalization)という用語が頻繁に使われるようになってきた。

互いに異なる文化的背景を持つ人々との交流を通じて生まれる相互理解の重要性は、国と国、人と人との信頼関係を育て、友好関係を発達させていく上で、不可欠な要素である。

本学では、真の国際理解教育をいかに効率よく学生に対して行うことができるのかについて、幅広い分野から知恵を結集し、具体化してきた。また学科教育や大学教育としても、その活動の展開の中で、常に重要事項の一つとして意識されるよう取り組んできた。本学が行う様々なプログラムに参加した学生の国際化に関するモチベーションは毎年確実に向上し、関わった卒業生の大学への帰属意識は他の例を見ないほど高い。

3ヶ月留学においては、現地で「生活」することによって、自分の目で見て、体で感じる学びを得ることができる。単一民族である日本社会で育った学生が、マルチ国家であるカナダやオーストラリア社会で、日本の基準からは想像もつかない現実とこれまでの常識を覆すような事実と直面し、衝撃を受け、考える大切さを学んでいる。

「生活」することによって、自分の将来や家族、日本を考える時間を持つことができる。文化や背景が異なる現地の人々の生活に触れ、日本では当たり前前に享受されている、モノや環境等の重要性を再認識することができる。

3ヶ月留学によって、その後のライフスタイルを変えた学生も多数いる。留学中に英語が伝わら

なかったもどかしさから、イングリッシュラウンジを頻繁に利用するようになった。卒業旅行は旧知のビクトリアやニューカッスルを訪れる。積極的にホストファミリーを申し出る。卒業後も勉学を継続し、ニューカッスル大学やビクトリア大学等に正規の留学をする。留学直後に抱いた夢を実現するために、会社に勤務しながら英語の学習を継続し、機会を待ち航空会社に就職した等。多数の素晴らしい報告を受けている。

短期大学という2年間の修学期間を考えると、そのうちの3ヶ月間を海外で生活する体験をすることは、大きな意義がある。「留学は、かけがえない経験になっている。」と参加した全ての学生が述べている。帰国後は、学友会の組織である国際交流委員会の中心で活躍している学生が多い。また、本学が主催する、英語スピーチコンテストにおいて、英語を専門に学習する学科がないにも関わらず、毎年上位を占めているのは、留学クラスの存在が影響している。

現地で「生活する」ことによって多様な人と出会い、そこに生きる人のエネルギーや考え方を目の当たりにしながら、留学先の国や母国である日本、家族等を考える学びの効果は、非常に大きい。同時にそれは、自分自身を見つめなおす大きなきっかけになっている。近年は、情報技術の目覚ましい発達によって、日本にいながらにして、世界的情勢や景色を見ることができると、ものごとの本質を知るには実際にその場所に行き、体験することによって得た心の動きを大切にする重要性を、今後も若い世代の学生に対して指導を継続していきたい。

【註】

(1) フルブライト奨学金

(Fulbright Fellowships and Fulbright Scholarships)
フルブライト奨学金の目的(Fulbright Japan ホームページより抜粋)

日米フルブライト交流計画は、日米両国の共同管理、自治運営に基づく委員会を發足し、所属機関・居住地・人種および信条に関係なく応募者個人の資質に基づく人選を行う一般公募の奨学金制度として国際的な評価を得ています。フルブライト奨学金は、奨学生が独自の専門分野の研究を行うための財政的援助を行うと共に、何らかの形で日米の相互理解に貢献できるリーダーを養成することを目的としています。日本人奨学生は各自の研究を行う傍ら、米国の歴史・文化に関するコースを受講し、またできる限り広く大学やその地域の活動に参加するよう期待されます。さらに、帰国後は職業分野あるいは私的な活動を通して、直接的・間接的に日米関係の工場に貢献するよう期待されます。

(2) 設置基準の大綱化

(大学評価・学位授与機構 高等教育質保障用語集より抜粋)

個々の大学が、学術の進展や社会の要請に適切に対応しつつ、その教育理念・目的に基づく特色ある教育研究を展開できるように、制度の弾力化を測るために1991年に実施された学校教育法、大学設置基準、短期大学設置基準など関連法令の大幅な改正。この改正により、従来詳細に定められていた教育課程などの基準の詳細の部分が削除され、基準の要件が緩和された一方で、教育研究の質の保証を大学自身に求めるという方針の下、大学による自己点検・評価が努力義務と定められた。この大綱化の動きは、後の認証評価制度の創設の契機となった。

(3) エクスチェンジプログラム

本学が、海外姉妹大学(豪州、米国、加国、台湾)の学生を受け入れ、交流を行っているもの。1992年から開始し、毎年実施している。

(4) TAFE

Technical and Further Education の略。オーストラリアに100校以上ある、職業訓練のための州立専門学校。市場のニーズや需要に対し、専

門知識やスキルを身に付けることができる。即戦力として働ける人材育成を目的としているので、各産業界と連携した研修等が行われている。

(5) TESOL

TESOLとはTeaching English to Speakers of Other Languages のことであり、世界レベルで承認されている英語教授法資格のことを指す。

(6) イングリッシュラウンジ

前期・後期それぞれ月曜日から金曜日の午後、アメリカ、スリランカ、オーストラリア出身のネイティブ教員が、本学のイベントホールに待機し、学生が気軽に英会話を楽しむことのできるラウンジを設置している。年間の利用者は、延べ3,000人を越える。

(7) 文部科学省 学校基本調査による

(8) ワーキング・ホリデー (外務省ホームページより抜粋)

ワーキング・ホリデー制度とは、二つの国・地域間の取り決め等に基づき、各々の国・地域が、相手国・地域の青少年に対して、時刻・地域の文化や一般的な生活様式を理解するために、時刻・地域において一定期間の休暇を過ごす活動とその間の滞在費を補うための就労を相互に認める制度です。我が国のワーキング・ホリデー制度は、1980年にオーストラリアとの間で開始されたことに始まり、1985年にニュージーランド、1986年にカナダとの間で開始されました。その後、1999年4月から韓国と、同年12月からフランスとの間で開始されました。更には、最近では、2000年12月からドイツ、2001年1月から香港との間で開始されています。

On Educational Significance of Three-Month Study Abroad Program

KUROSAKI Mayumi

[abstract]

In consequence of the rapid strengthening of the yen after the 1980's, Japan's number of overseas travelers showed a rapid increase. The stage has changed from going overseas as something to long for to something to experience. Formerly, study abroad was confined to a select few under programs such as the Fulbright scholarships. Now it is possible for everyone to enhance English proficiency, experience life in foreign countries, or to obtain qualifications. Also the tremendous progress of information technology in the age of IT enables students to know things happening around the world in an instant. What matters is how to manage this abundance of information and to make it part of oneself.

In such a global context, Shohoku College offers junior college students what might be called “an experience in living overseas,” that is, a three-month study abroad program in Canada or Australia. This paper attempts to examine the effectiveness of the program on students' English proficiency, their student lives after returning to Japan, their future and way of thinking.

[key words]

international understanding, three-month study abroad program, cross-cultural understanding,
English proficiency